



曾我の大地の恵みと人との絆を生かして、

健やかで心豊かな子供を育む学校づくり

小田原市立曾我小学校

1 事業の目的

- コミュニティスクールとして学校運営協議会を設置し、保護者や地域住民の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」の推進により、子供たちの豊かな育ちを確保するとともに、地域との絆を強め、地域づくりの担い手を育てる。学校が地域の学びの核となり、スクールコミュニティを形成できるよう実践を進める。
- 曾我の地域のよさを学習し、郷土愛を育てる「曾我・はあと」を充実させる。稲作体験学習が核となる学校総合「どろんこ田プロジェクト」を発展させる。曾我の自然や環境、伝統、歴史、産業、食、人の営みなどを児童が系統的、継続的に学ぶ研究を進める。また、もち米や玉ねぎなどを育て、給食で食すことにより、食の大切さを学ぶ。
- スクボラやゲストティーチャーを活用し、地域連携を推進する。ボランティア活動を行う保護者や地域の方の姿をモデルとして子供が学び、将来、地域で役に立ちたいという気持ちを醸成する。子供たちが、ゲストティーチャーとして活躍する地域の方から学んだことを生かし、生涯に渡って学び続ける意欲をもつようにする。
- 豊かな心をもつ児童の育成に向けて、心の教育に関して統括的に推進するハートプロジェクトを充実させる。特に基本ライフスキル「自己有用感の育成」の習得を計画的に進めるため、学校保健委員会で「心の健康」をテーマに扱い、効果的な指導方法を研究する。

2 事業の内容

(1)「地域とともにある学校づくり」の推進へ ～ 学校運営協議会からおやじの会との連携 ～

平成28年度より、学校運営協議会を発足し、コミュニティスクールとして歩み出し、「学校・家庭・地域で育てる 曾我小プライド」を合言葉として、学校・家庭・地域が連携・協働し、子供たちの豊かな育ちを確保するとともに、地域との絆を深め、地域づくりの担い手を育てるという「地域とともにある学校づくり」をめざしている。

昨年度末の学校運営協議会で、子供たちの活動（特に田植えに至るまで）の下準備や、水田の整備が教職員の負担になっていること、水田の存続などについて話し合うことができた。すると、学校だけでは知りえない情報や考えつかないアイデアをいただくことができた。結果、水田の整備はおやじの会にお願いすることができた。学校運営協議会は

多様な立場の人で構成されているよさを実感した。このように、学校運営のバックアップをしてもらうことができ、学校と地域が一つのチームになった一体感があった。また、学校としての役割も明確になり、有意義な協議会となった。



おやじの会による水田整備

(2)「曾我・はあと」の充実 ～ 稲作体験学習「どろんこ田プロジェクト」の発展 ～

毎年、稲作体験学習が核となる学校総合に取り組んでいる。5年生を中心に、種まきからはじまり、代かき、田植え、水の管理、稲刈り、脱穀まで全工程を行っている。11月には5年生が稲作体験報告会を開き、全校児童に稲作の工程を伝え、曾我小伝統の稲作を継承した。このように、曾我の自然や環境、伝統、歴史、食、人の営みなど、系統的、継続的に学ぶ研究を進めている。

今年は、先述のように、おやじの会による水田整備もあり、昨年の68 kgから171 kgと大きく収穫量を伸ばした。収穫したもち米は、おこわにして給食で提供し、感謝の心で食し、活動を通じた食の大切さも学んでいる。



今年度の報告会は感染症対策のため体育館からオンラインで校内に配信



苗床づくり



代かき



5年生が4年生に田植えをレクチャー

(3) スクールボランティアを活用した地域連携の推進

スクールボランティアコーディネーターを中心に感染症対策をとって可能な限り、地域素材（地域環境や地域人材）の活用による推進を図っている。稲作や読み聞かせを行っていただくボランティアなど、多様で幅広い学びをより充実させる場をもつことで、郷土に感謝し、郷土を愛する心を育む機会としている。



地域のミカン農家の方の協力を得てのミカン狩り



ボランティアによる読み聞かせ



田植えボランティア

3 事業の成果

学校運営協議会を活用し、保護者や地域住民の力を学校運営に活かす「地域とともにある学校づくり」を推進し、子供たちの豊かな育ちを保障するとともに地域との絆を強め、地域づくりの担い手を育てることができている。

全校で取り組む稲作体験学習を中心に、地域の方や保護者の協力を得ながら、勤労奉仕の精神が育まれ、多くの人との関わることによって、感謝する心や思いやりの気持ちも育ってきている。

感染症対策に十分配慮しながら、ボランティアの参加を募り、教育活動に参加していただくことにより、保護者や地域の方々との連携を図り、開かれた学校づくり・期待される学校づくりの推進にもつながってきている。